

2006年度 工学部デザイン工学科 A コース (意匠)(意匠) 授業科目一覧表

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
TF001001	図学演習	2.0	1年前期月曜 3限	渡邊 誠他	意匠 3
TF246001	統合デザイン実習 I	1.5	1年前期月曜 4限後半 1年前期月曜 5限	青木 弘行他	意匠 3
TF204001	デザイン論 I	2.0	1年前期火曜 2限	宮崎 清	意匠 4
TF202001	デザイン造形実習 I	1.5	1年前期火曜 3限 1年前期火曜 4限前半	瀧 徹他	意匠 5
TY016001	造形演習	2.0	1年前期火曜 5限	宮崎 清	意匠 6
TY016003	造形演習	2.0	1年前期火曜 5限	玉垣 庸一	意匠 7
TY016004	造形演習	2.0	1年前期火曜 5限	福川 裕一	意匠 7
TY016005	造形演習	2.0	1年前期火曜 5限	釜池 光夫他	意匠 7
TY016006	造形演習	2.0	1年前期火曜 5限	瀧 徹	意匠 8
TY016007	造形演習	2.0	1年前期火曜 5限	岡部 明子	意匠 8
TF206001	デザイン造形実習 II	1.5	1年前期水曜 3限 1年前期水曜 4限前半	堀田 明博他	意匠 9
TF247001	統合デザイン実習 II	2.0	1年後期月曜 4,5限	青木 弘行他	意匠 10
TF208001	デザイン論 II	2.0	1年後期火曜 2限	釜池 光夫	意匠 10
TF248001	統合デザイン実習 III	2.0	1年後期火曜 4,5限	青木 弘行他	意匠 11
TF002002	デザイン工学セミナー (意匠系)	2.0	1年後期水曜 1限	デ工 (意匠系) 各教官	意匠 12
TF210001	デザイン科学 I	2.0	1年後期水曜 3限	堀田 明博他	意匠 12
TF249001	統合デザイン実習 IV	2.0	1年後期金曜 4,5限	青木 弘行他	意匠 13
TF212001	デザイン科学 II	2.0	2年前期月曜 2限	勝浦 哲夫他	意匠 14
TF211001	デザイン論 III	2.0	2年前期火曜 3限	清水 忠男他	意匠 14
TF215001	トランスポーターションデザイン I	3.0	2年前期火曜 4限後半 2年前期火曜 5限	青木 護他	意匠 15
TF218001	形の工学	2.0	2年前期水曜 1限	久保 光徳	意匠 16
TF217001	メディアデザイン I	3.0	2年前期水曜 4限後半 2年前期水曜 5限	玉垣 庸一他	意匠 17
TF214001	工業デザイン I	3.0	2年前期木曜 4限後半 2年前期木曜 5限	(久米 寿明)	意匠 18
TF213101	デジタルデザイン実習	1.5	2年前期金曜 3限 2年前期金曜 4限前半	(大平 智弘) 他	意匠 19
TF216001	環境デザイン I	3.0	2年前期金曜 4限後半 2年前期金曜 5限	(藤本 香) 他	意匠 19
TF225001	デザイン文化論	2.0	2年後期月曜 2限	宮崎 清	意匠 20
TZ051001	工学倫理	2.0	3年後期月曜 5限	伊藤 智義	意匠 21
TF220001	トランスポーターションデザイン II	3.0	2年後期火曜 3限 2年後期火曜 4限前半	釜池 光夫	意匠 22
TF250001	デザインの展望	2.0	2年後期火曜 5限	佐藤 公信	意匠 23
TF223001	ヒューマンインタフェース論	2.0	2年後期水曜 2限	岩永 光一	意匠 23
TF224001	デザイン材料	2.0	2年後期水曜 3限	青木 弘行他	意匠 24
TF222001	メディアデザイン II	3.0	2年後期水曜 4限後半 2年後期水曜 5限	(松原 正毅) 他	意匠 25
TF219001	工業デザイン II	3.0	2年後期木曜 4限後半 2年後期木曜 5限	渡邊 誠他	意匠 26
TF221001	環境デザイン II	3.0	2年後期金曜 3限 2年後期金曜 4限前半	佐藤 公信	意匠 26

2006年度 工学部デザイン工学科 A コース (意匠)(意匠) シラバス

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
TF232001	環境人間工学	2.0	3年前期水曜 2限	勝浦 哲夫	意匠 27
TF227001	トランスポーターデザイン III	3.0	3年前期水曜 3限 3年前期木曜 4限前半	釜池 光夫 ^他	意匠 28
TZ052001	知的財産権セミナー	2.0	3年前期火曜 5限	(三中 英治)	意匠 28
TF229001	メディアデザイン III	3.0	3年前期水曜 3限 3年前期水曜 4限前半	玉垣 庸一	意匠 29
TF230001	デザイン文化計画演習	3.0	3年前期木曜 1限後半 3年前期木曜 2限	宮崎 清 ^他	意匠 30
TF226001	工業デザイン III	3.0	3年前期木曜 4限後半 3年前期木曜 5限	渡邊 誠	意匠 31
TF231001	平面デザイン造形	3.0	3年前期水曜 4限後半 3年前期水曜 5限	瀧 徹 ^他	意匠 32
TF233001	色と形の心理学	2.0	3年前期金曜 1限	日比野 治雄	意匠 32
TF228001	環境デザイン III	3.0	3年前期金曜 4限後半 3年前期金曜 5限	清水 忠男	意匠 33
TF240001	生活行動の心理学	2.0	3年後期火曜 2限	桐谷 佳恵	意匠 34
TF235001	トランスポーターデザイン IV	3.0	3年後期金曜 4限後半 3年後期金曜 5限	釜池 光夫	意匠 35
TF237001	メディアデザイン IV	3.0	3年後期水曜 3限 3年後期水曜 4限前半	(大橋 透) ^他	意匠 36
TF239001	立体デザイン造形	3.0	3年後期水曜 4限後半 3年後期水曜 5限	瀧 徹	意匠 36
TF238001	材料開発計画	2.0	3年後期木曜 5限	青木 弘行	意匠 37
TF234001	工業デザイン IV	3.0	3年後期金曜 4限 3年後期金曜 5限前半	渡邊 誠	意匠 38
TF236001	環境デザイン IV	3.0	3年後期火曜 4限後半 3年後期火曜 5限	(鈴木 恵千代) ^他	意匠 39

授業科目名： 図学演習
 科目英訳名： Descriptive Geometry (Lec & Lab)
 担当教員： 渡邊 誠, 田内 隆利, 小野 健太, 八馬 智
 単位数： 2.0 単位
 開講時限等： 1 年前期月曜 3 限
 授業コード： TF001001
 講義室： 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分

2006 年入学生： 専門基礎必修 E10 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法]

[目的・目標] 物品および空間を把握し、操作、表示する能力を涵養し、デザインの思考展開および伝達手段として必要な基礎的図法の理論の学習と演習を行う。具体的な目標は第三角法平行投影図法および JIS 製図法の理解および実践的な運用を可能にする能力を取得することとする。

[授業計画・授業内容]

1. 第三角法平行投影図法および JIS 製図法に関するイントロダクション
2. 第三角法平行投影図法：投影法、直線、直線と平面の関係を演習を通して理解する
3. 第三角法平行投影図法：平面と平面の関係を演習を通して理解する
4. 第三角法平行投影図法：切断を演習を通して理解する
5. 第三角法平行投影図法：相関体を演習を通して理解する
6. 第三角法平行投影図法：展開を演習を通して理解する
7. 第三角法平行投影図法：軸測投影を演習を通して理解する
8. 第三角法平行投影図法に関する試験：前回までに行った内容に関する試験を行う
9. JIS 製図法：寸法、R、材質などの JIS 規格による製図の基本的な表記方法を解説する。
10. JIS 製図法：簡単な道具を実測し姿図を作成する。実測法の実習。
11. JIS 製図法：断面図 1：簡単な製品の断面図を作成する
12. JIS 製図法：断面図 2：曲面を有する製品の断面図を作成する
13. JIS 製図法：構造図 1：複雑な製品の内部構造を含めた作図を行う
14. JIS 製図法：構造図 2：複雑な製品の内部構造を含めた作図を行う
15. JIS 製図法：講評：提出された課題をもとに講評を行う

[キーワード] 第三角法図学、JIS 製図法

[教科書・参考書] ガイダンスにて紹介

[評価方法・基準] テストおよび課題提出

授業科目名： 統合デザイン実習 I
 科目英訳名： Integrated Design Practice I
 担当教員： 青木 弘行, 岩永 光一, 田内 隆利, 小野 健太, 小原 康裕, 樋口 孝之, 原 寛道, 八馬 智
 単位数： 1.5 単位
 開講時限等： 1 年前期月曜 4 限後半 / 1 年前期月曜 5 限
 授業コード： TF246001, TF246002
 講義室： 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室
 (授業時間 15:15 ~ 17:40)

科目区分

2006 年入学生： 専門必修 F10 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 講義・実習

[受入人数] 80

[授業概要] 人工物デザインでは、基盤となる科学的理解と応用としての実践的理解が求められる。本授業科目では、デザインの科学的方法に関する基礎的な講義および実習と、それに対応したデザインの実践に関する基礎的な実習を行う。授業では、人体計測とプロダクトデザイン、材料計画とプロダクトデザイン、色彩科学とグラフィックデザインの 3 課題を、各々 5 週間ずつ設ける。

[目的・目標] 人工物デザインの基盤としての科学的方法の役割と、それが実際のデザインにおいてどのように反映されるかについての基礎的な理解を求める。

[授業計画・授業内容]

1. 人間の大きさとプロポーション
2. 人間の構造
3. ものの大きさ
4. ものの成り立ち (1)
5. ものの成り立ち (2)
6. 形の表現技法 (1) 図学
7. 形の表現技法 (2) 図学
8. 形の表現技法 (3) 工業製図
9. 形の表現技法 (4) 工業製図
10. 形の表現技法 (5) 透視図
11. 形の表現技法 (6) 透視図
12. 立方体の描画
13. 面構成
14. 質感表現
15. レビュー

[教科書・参考書] 授業時に必要に応じて指示する。

[評価方法・基準] レポートおよびデザイン成果によって評価する。出席回数と出席態度も加味する。

[関連科目] 統合デザイン実習 II, III, IV

TF204001

授業科目名： デザイン論 I

科目英訳名： Theory of design I

担当教員： 宮崎 清

単位数： 2.0 単位

開講時限等： 1 年前期火曜 2 限

授業コード： TF204001

講義室： 工 2 号棟 202 教室

科目区分

2006 年入学生： 専門必修 F10 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 講義

[授業概要] デザイン工学科意匠系におけるデザイン教育の視点、デザインの役割、我が国のデザインの特性、近代デザインの歴史等について論述する。

[目的・目標] デザインの社会的使命、目的、デザインにおける用と美、伝統工芸、循環型社会のデザイン、デザインの歴史等について理解することを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. デザインを学ぶということ、デザイン工学科の歩み
2. 用と美、その統合としてのデザイン
3. 時間・空間のデザイン / 日本の美の普遍性
4. 伝統的工芸とデザイン / 日本のアイデンティティ
5. 循環型社会のデザイン
6. デザインと地域政策
7. 文化としてのデザイン
8. デザインの歴史を学ぶということ
9. 機械化時代の到来と生活の芸術化
10. グラスゴー派、Art Nouveau、ユークントシュティル、ウィーン分離派
11. ベーレンスと AEG、D.W.B. (工業化と規格化)

12. Bauhaus I
13. Bauhaus II
14. 日本におけるデザインの歴史
15. 最終試験

[キーワード] デザイン, 用と美, 伝統工芸, 循環型社会, デザイン史

[教科書・参考書] 授業開始時に指示する

[評価方法・基準] 出席(毎回出席をチェックする): 30%、レポート課題: 30%、試験: 40%

[関連科目] デザイン論 II、デザイン論 III、デザイン科学 I、デザイン科学 II

[履修要件] 必修

[備考] 平成16年度まで開講されていた「デザインの歴史」の読み替え科目である。

TF202001

授業科目名: デザイン造形実習 I

科目英訳名: Practicum in design fundamentals I

担当教員: 瀧 徹, 玉垣 庸一, 桐谷 佳恵, 田内 隆利, (清原 明生)

単位数: 1.5 単位

開講時等: 1 年前期火曜 3 限 / 1 年前期火曜 4 限前半

授業コード: TF202001, TF202002

講義室: 工 2-アトリエ (2-601)

(授業時間 12:50~15:15)

科目区分

2006 年入学生: 専門必修 F10 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 実習

[受入人数] 80 人

[受講対象] デザイン工学科意匠系 1 年生

[授業概要] 対象物の形態、材質感、動き等の特性を正確に描写し、また、色彩で対象物を構成する実習を行う。

[目的・目標] デザインにおける平面造形力の基礎となる対象物の特性等の理解とその描写力を身につけることを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 授業の説明、鉛筆による明暗グラデーションとそれによる平面構成
2. 球(石膏)デッサン
3. 同上
4. 静物(ガラスコップ、ビール瓶、ボルトナット等)デッサン
5. 同上
6. 同上
7. 人体クロッキー
8. 同上
9. 同上
10. 静物(玉葱)着彩写生
11. 同上
12. 静物(玉葱)平面構成
13. 同上
14. 同上
15. 講評

[キーワード] デッサン、平面構成、色、形、クロッキー

[評価方法・基準] 各課題の提出の有無及び課題目的への達成度

[関連科目] 「デザイン造形実習 II」

[履修要件] 必修

[備考] 実習場所の関係で、受講学生を 2 分し、デザイン造形実習 I と デザイン造形実習 II の課題を前期、後期に交替で行う。前期は学籍番号 1～40 の学生が受講すること。「デザイン造形実習 I」と「デザイン造形実習 II」を併せて平成 16 年度までに開講されていた「基礎造形演習」の読み替え科目になる。

TY016001

授業科目名：造形演習 科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.) 担当教員：宮崎 清 単位数：2.0 単位 授業コード：TY016001	開講時限等：1 年前期火曜 5 限 講義室：工 5 号棟 204 教室
--	--

科目区分

2006 年入学生：専門基礎必修 E10 (TE:都市環境システム学科, TF4:デザイン工学科 A コース (建築), TF5:デザイン工学科 A コース (意匠), TK3:都市環境システム学科 (先進科学)), 専門基礎選択必修 E20 (TG:電子機械工学科 A コース, TG4:電子機械工学科 A 機械系, TG5:電子機械工学科 A 電気電子系, TH:情報画像工学科 A コース, TK2:先進科学プログラム (フロンティア), TK4:メディカルシステム工学科 (先進科学), TL:メディカルシステム工学科), 専門選択科目 F36 (TM:共生応用化学科, TM1:共生応用化学科生体関連コース, TM2:共生応用化学科応用化学コース, TM3:共生応用化学科環境調和コース)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 「工学」とは「ものづくり」であり、「ものづくり」とは「造形」である。「造形演習」は、いくつかの「造形」に関する課題を通して、「工学 = ものづくり」に対する関心を鼓舞し、学生のひとりひとりが有する造形の資質を覚醒する。

[目的・目標] 本演習の具体的な目的は、以下のようである。(1)「学び取る」姿勢を培う。(2)多面的な観察能力を養う。(3)多様な解の存在を認識する。(4)プレゼンテーション能力を涵養する。「造形演習」の 4 つの課題のひとつひとつには、限られた時間のなかで精一杯にチャレンジし、満足するまで成し遂げることが求められている。頭脳と手とを連動させ、「手を動かし、汗をかき、想いをめぐらし、創る」まさに「手汗想創」を体感する。

[授業計画・授業内容]

1. 全体ガイダンスおよびクラス分け
2. 第 1 課題：「鉛筆による精密描写」
3. 第 1 課題の演習
4. 第 1 課題の講評
5. 第 2 課題：「展開図に基づいた立体物の描写」
6. 第 2 課題の演習
7. 第 2 課題の講評
8. 中間発表会
9. 第 3 課題：「卓上ランプシェードの制作」
10. 第 3 課題の演習
11. 第 3 課題の講評
12. 第 4 課題：「飛行体の造形」
13. 第 4 課題の演習
14. 第 4 課題の講評
15. 展示会

[キーワード] 観察・思索, デザイン, 手汗想創, プレゼンテーション

[教科書・参考書] 特にありません。

[評価方法・基準] 成績評価は、出席状況、作品・プレゼンテーションの状況に基づいて行います。

[関連科目] 特にありません。

[履修要件] 特にありません。

[備考] 特にありません。

TY016003

授業科目名：造形演習
 科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.)
 担当教員：玉垣 庸一
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TY016003

開講時限等：1 年前期火曜 5 限
 講義室：工 2 号棟 201 教室

科目区分

2006 年入学生：専門基礎必修 E10 (TE:都市環境システム学科, TF4:デザイン工学科 A コース (建築), TF5:デザイン工学科 A コース (意匠), TK3:都市環境システム学科 (先進科学)), 専門基礎選択必修 E20 (TG:電子機械工学科 A コース, TG4:電子機械工学科 A 機械系, TG5:電子機械工学科 A 電気電子系, TH:情報画像工学科 A コース, TK2:先進科学プログラム (フロンティア), TK4:メディカルシステム工学科 (先進科学), TL:メディカルシステム工学科), 専門選択科目 F36 (TM:共生応用化学科, TM1:共生応用化学科生体関連コース, TM2:共生応用化学科応用化学コース, TM3:共生応用化学科環境調和コース)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

[評価方法・基準]

TY016004

授業科目名：造形演習
 科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.)
 担当教員：福川 裕一
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TY016004

開講時限等：1 年前期火曜 5 限
 講義室：工 17 号棟 212 教室

科目区分

2006 年入学生：専門基礎必修 E10 (TE:都市環境システム学科, TF4:デザイン工学科 A コース (建築), TF5:デザイン工学科 A コース (意匠), TK3:都市環境システム学科 (先進科学)), 専門基礎選択必修 E20 (TG:電子機械工学科 A コース, TG4:電子機械工学科 A 機械系, TG5:電子機械工学科 A 電気電子系, TH:情報画像工学科 A コース, TK2:先進科学プログラム (フロンティア), TK4:メディカルシステム工学科 (先進科学), TL:メディカルシステム工学科), 専門選択科目 F36 (TM:共生応用化学科, TM1:共生応用化学科生体関連コース, TM2:共生応用化学科応用化学コース, TM3:共生応用化学科環境調和コース)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

[評価方法・基準]

TY016005

授業科目名：造形演習
 科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.)
 担当教員：釜池 光夫, 長尾 徹
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TY016005

開講時限等：1 年前期火曜 5 限
 講義室：工 17 号棟 213 教室

科目区分

2006年入学生: 専門基礎必修 E10 (TE:都市環境システム学科, TF4:デザイン工学科Aコース(建築), TF5:デザイン工学科Aコース(意匠), TK3:都市環境システム学科(先進科学)), 専門基礎選択必修 E20 (TG:電子機械工学科Aコース, TG4:電子機械工学科A機械系, TG5:電子機械工学科A電気電子系, TH:情報画像工学科Aコース, TK2:先進科学プログラム(フロンティア), TK4:メディカルシステム工学科(先進科学), TL:メディカルシステム工学科), 専門選択科目 F36 (TM:共生応用化学科, TM1:共生応用化学科生体関連コース, TM2:共生応用化学科応用化学コース, TM3:共生応用化学科環境調和コース)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

[評価方法・基準]

TY016006

授業科目名: 造形演習	
科目英訳名: Design Aesthetics(Lab.)	
担当教員: 瀧 徹	
単位数: 2.0 単位	開講時限等: 1 年前期火曜 5 限
授業コード: TY016006	講義室: 創造工学センター

科目区分

2006年入学生: 専門基礎必修 E10 (TE:都市環境システム学科, TF4:デザイン工学科Aコース(建築), TF5:デザイン工学科Aコース(意匠), TK3:都市環境システム学科(先進科学)), 専門基礎選択必修 E20 (TG:電子機械工学科Aコース, TG4:電子機械工学科A機械系, TG5:電子機械工学科A電気電子系, TH:情報画像工学科Aコース, TK2:先進科学プログラム(フロンティア), TK4:メディカルシステム工学科(先進科学), TL:メディカルシステム工学科), 専門選択科目 F36 (TM:共生応用化学科, TM1:共生応用化学科生体関連コース, TM2:共生応用化学科応用化学コース, TM3:共生応用化学科環境調和コース)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

[評価方法・基準]

[備考] 創造工学センターは土足厳禁、上履きを用意すること

TY016007

授業科目名: 造形演習	
科目英訳名: Design Aesthetics(Lab.)	
担当教員: 岡部 明子	
単位数: 2.0 単位	開講時限等: 1 年前期火曜 5 限
授業コード: TY016007	講義室: 工 17 号棟 211 教室

科目区分

2006年入学生: 専門基礎必修 E10 (TE:都市環境システム学科, TF4:デザイン工学科Aコース(建築), TF5:デザイン工学科Aコース(意匠), TK3:都市環境システム学科(先進科学)), 専門基礎選択必修 E20 (TG:電子機械工学科Aコース, TG4:電子機械工学科A機械系, TG5:電子機械工学科A電気電子系, TH:情報画像工学科Aコース, TK2:先進科学プログラム(フロンティア), TK4:メディカルシステム工学科(先進科学), TL:メディカルシステム工学科), 専門選択科目 F36 (TM:共生応用化学科, TM1:共生応用化学科生体関連コース, TM2:共生応用化学科応用化学コース, TM3:共生応用化学科環境調和コース)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

[評価方法・基準]

TF206001

授業科目名：デザイン造形実習 II

科目英訳名：Practicum in design fundamentals II

担当教員：堀田 明博, 久保 光徳, 小野 健太, 樋口 孝之, 原 寛道

単位数：1.5 単位

開講時限等：1 年前期水曜 3 限 / 1 年前期水曜 4 限前半

授業コード：TF206001, TF206002

講義室：工 2 - 工房, 工 2-第一製図室, 工 2 - 工房,
工 2-第一製図室

(授業時間 12:50 ~ 15:15)

科目区分

2006 年入学生：専門必修 F10 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 実習

[受入人数] 80 人

[受講対象] デザイン工学科意匠系 1 年生

[授業概要] 平面図を基にした立体構成、平面と曲面を持った立体物の作成、単純な機能を有する生活用品のデザインを行う。

[目的・目標] デザインにおける立体造形力の基礎となるモデリング技術、立体構成力を身につけること、また、材料特性を理解することを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 授業の説明、立体構成：平面から立体物を構成する
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 講評
6. 立体構成：三つの化粧品ボトルのデザイン
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 講評
11. 造形と材料特性：段ボールによるスツールのデザイン
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 講評

[キーワード] モデリング、立体構成

[教科書・参考書] 清水吉治著：モデリングテクニック (第 9 刷), グラフィック社, 2001

[評価方法・基準] 課題提出の有無及び課題目的への達成度、出席日数

[関連科目] 「デザイン造形実習 I」

[履修要件] 必修

[備考] 「デザイン造形実習 I」と「デザイン造形実習 II」を併せて平成 16 年度まで開講されていた「基礎造形演習」の読み替え科目になる。

授業科目名： 統合デザイン実習 II
 科目英訳名： Integrated Design Practice II
 担当教員： 青木 弘行, 岩永 光一, 田内 隆利, 小野 健太, 小原 康裕, 樋口 孝之, 原 寛道, 八馬 智
 単位数： 2.0 単位 開講時限等: 1 年後期月曜 4,5 限
 授業コード： TF247001, TF247002 講義室： 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分

2006 年入学生: 専門必修 F10 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 講義・実習

[受入人数] 80

[授業概要] 工業デザイン・トランスポートデザイン・人間環境デザイン・視覚伝達デザインに共通した、基礎的な立体表現と効果的な視覚表現の方法について修得する。

[目的・目標] デザインにおける表示は、いわゆる一般的な絵の表現方法とは異なったものである。本実習は、このデザインにおける必要な表示方法を習得する。

[授業計画・授業内容]

1. ガイダンス (前期のおさらい、後期の構成)
2. イラストレーターの基本操作
3. 立体表現練習問題製品スケッチ (立体表現) リフレクションとハイライトの解説
4. イラストレーターの応用操作 (携帯電話の描画) マーケティングの解説 (ユーザビリティ、嗜好、ターゲット)
5. アイデア展開に向けた製品分析コンセプトの作り方
6. イラストレーターの応用操作
7. コンセプトの講評アイデアの作り方手の訓練 (スケッチ)
8. フォトショップの基本操作
9. スケッチスタイリング (カタチの探索)
10. イラストレーターによる図面化
11. フォトショップの応用操作 3 面レンダリング
12. レンダリングの講評モックアップ制作
13. DTP の基本 (色、フォント、レイアウト) パンフレット制作マーケティング (宣伝、コミュニケーション)
14. モックアップ制作相談会
15. パンフレット制作相談会

[キーワード] デザイン, 表示, 表現

[教科書・参考書] 別途指示

[評価方法・基準] 課題提出

[関連科目] 統合デザイン実習 I, III, IV

授業科目名： デザイン論 II
 科目英訳名： Theory of design II
 担当教員： 釜池 光夫
 単位数： 2.0 単位 開講時限等: 1 年後期火曜 2 限
 授業コード： TF208001 講義室： 工 2 号棟 202 教室

科目区分

2006 年入学生: 専門必修 F10 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 講義

[授業概要] 製品デザインに関する人・もの・環境と産業の枠組みの基礎概念を学ぶ

[目的・目標] 製品デザインに関わる枠組み・歴史・プロセス・産業の諸要件の涵養を目指し、産業製品の計画に関わる人、製品、環境に関わる諸事象の調査開発に関する知識について理解を深める。

[授業計画・授業内容]

1. はじめに：製品デザインの定義・講義ガイダンス
2. 製品デザイン事例（家具・家電）
3. 製品デザイン事例（交通機関・道具）
4. 製品デザインの歴史（変動系）
5. 製品デザインの歴史（製品進化論）
6. 生活とデザイン（レポート）
7. 製品開発のプロセス（コンセプト）
8. 製品開発のプロセス（アイデア・モデリング）
9. 製品開発のプロセス（プロダクション）
10. インタフェース（ハード）
11. インタフェース（ソフト）
12. 問題解決学・システム
13. 産業と製品デザイン
14. 製品デザインにおける課題と展望
15. 最終試験

[キーワード] 製品、R&D、動具、システム、製品進化、生活複雑変動系、ソリューション

[教科書・参考書] 授業開始時に指示する

[評価方法・基準] 出席（毎回出席をチェックする）：30%；レポート課題：30%；試験：40%

[関連科目] デザイン論 I、デザイン論 III、デザイン科学 I、デザイン科学 II

TF248001

授業科目名：統合デザイン実習 III 科目英訳名：Integrated Design Practice III 担当教員：青木 弘行, 岩永 光一, 田内 隆利, 小野 健太, 小原 康裕, 樋口 孝之, 原 寛道, 八馬 智 単位数：2.0 単位 授業コード：TF248001, TF248002	開講時限等：1 年後期火曜 4,5 限 講義室：工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室, 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室
---	--

科目区分

2006 年入学生：専門必修 F10 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 講義・実習

[受入人数] 80

[授業概要] 工業デザイン・トランスポーターデザイン・人間環境デザイン・視覚伝達デザインに共通した、基礎的な立体表現と効果的な視覚表現の方法について修得する。

[目的・目標] デザインにおける表示は、いわゆる一般的な絵の表現方法とは異なったものである。本実習は、このデザインにおける必要な表示方法を習得する。

[授業計画・授業内容]

1. 空間の把握空間の成り立ち（事例紹介）
2. 新聞紙シェルターの制作プレゼンテーション
3. パースの基礎トレーニング
4. 複合商業施設のスケッチ製品演出のアイデア展開販促物の解説
5. 単位空間の構成製品陳列棚のデザイン
6. 模型制作
7. 移動・可変空間の構成什器のデザイン
8. 中間プレゼンテーション

[キーワード] デザイン, 表示, 表現

[教科書・参考書] 別途指示

[評価方法・基準] 課題提出

[関連科目] 統合デザイン実習 I, II, IV

TF002002

授業科目名: デザイン工学セミナー (意匠系)
 科目英訳名: Seminar: Introduction to Design
 担当教員: デ工 (意匠系) 各教官
 単位数: 2.0 単位
 開講時限等: 1 年後期水曜 1 限
 授業コード: TF002002
 講義室: 工 2 号棟 102 教室

科目区分

2006 年入学生: 専門基礎必修 E10 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 講義・演習

[目的・目標] セミナー形式の授業を通じて各教員の教育研究内容に触れることにより、デザイン領域での研究、実践に対する基本的理解を深めて行くとともに、少人数セミナーであることを活かし、学生と教員のコミュニケーションの基盤を形成することを目標とする。

[授業計画・授業内容] 各教員は配分されたグループ (3 ~ 4 名の学生) を全期間にわたって受け持ち、セミナー形式の授業を行う。全体のプロデューサ役は学年担任が務める。授業形態は、各教員が定めた課題についての実験、実習、調査ならびに考察、結果のまとめ・日々の生活体験や市場調査、現地調査にもとづく問題の発掘、ならびに解決に向けたデザイン提案・工場、施設などの見学を通じ、デザイン現場における生産、技術についてレポートなど、教員により様々な展開が考えられるが、その目指す方向は同じである。すなわち受講生は、デザイン工学科意匠系における勉学の方式や態度、問題意識や関心の持ち方などについて、きめ細かい教育、指導のもと、教員と一体となって思考し、今後の学生生活の展望を得よう努めなければならない。各グループ単位での少人数授業が原則であるが、グループどうしが合流した全体討論や見学会など、担当教員が所属する分野単位での授業形態が適宜取り入れられることもある。また、授業形態によっては時間割外の時間に行うことがある。

[評価方法・基準] 課題、レポートおよび討論により成績評価を行う。

[備考] 第一回目の授業でグループを決定する。第二回目以降の授業時間帯については、担当教員と受講生で相談の上、その都度決定する。

TF210001

授業科目名: デザイン科学 I
 科目英訳名: Design Science I
 担当教員: 堀田 明博, 青木 弘行
 単位数: 2.0 単位
 開講時限等: 1 年後期水曜 3 限
 授業コード: TF210001
 講義室: 工 2 号棟 202 教室

科目区分

2006 年入学生: 専門必修 F10 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 講義

[受入人数] 75 人

[受講対象] デザイン工学科意匠系 1 年生

[授業概要] デザインによって生起する人間行動の特性とその観察等の方法、デザインへの応用とについて論述する。また、デザインされた人工物の物理特性や材料生産技術、感性的な特性等について論述する。

[目的・目標] デザインの対象である人工物と人間行動との関係に対する基本的知識を学習する。人間行動に関しては、観察、計測、分析、評価法等の理解とデザインへの応用能力を育成する。人工物に関しては、人工物の物理的特性、生産方法、感性評価等に関する理解とデザインへの応用能力を育成することを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. デザインの対象としての生活環境の捉え方。人間行動システムと生活環境システム
2. 人間行動の捉え方。ユーザ特性とユーザ要求
3. 人間行動の観察・計測・評価

4. 人間行動のタイプ化とデザイン条件
5. 人間行動の特性とスペーシング
6. 人体寸法と設計寸法
7. 人間行動と設計条件
8. デザインの対象としての人工物の捉え方。固有特性と属性
9. 人工物の形態と製造条件
10. 人工物の経済的特性
11. 人工物と環境問題
12. 人工物の感性・感覚的特性
13. 人工物の物理・化学的特性
14. 先端技術と人工物開発
15. テスト

[キーワード] 人間行動、人工物、観察、計測、感覚的特性、先端技術

[教科書・参考書] 授業時に指示する。

[評価方法・基準] 出席数、レポートの提出の内容、テストによる授業の理解度

[関連科目] デザイン論 I, デザイン論 II、デザイン論 III、デザイン科学 II,

[履修要件] 必修

[備考] 平成15年度まで開講されていた「材料計画論 [TF008001]」の読み替え科目である。

TF249001

授業科目名： 統合デザイン実習 IV

科目英訳名： Integrated Design Practice IV

担当教員： 青木 弘行, 岩永 光一, 田内 隆利, 小野 健太, 小原 康裕, 樋口 孝之, 原 寛道, 八馬 智

単位数： 2.0 単位

開講時限等: 1 年後期金曜 4,5 限

授業コード： TF249001, TF249002

講義室： 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分

2006 年入学生: 専門必修 F10 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 講義・実習

[受入人数] 80

[授業概要] 工業デザイン・トランスポートデザイン・人間環境デザイン・視覚伝達デザインに共通した、基礎的な立体表現と効果的な視覚表現の方法について修得する。

[目的・目標] デザインにおける表示は、いわゆる一般的な絵の表現方法とは異なったものである。本実習は、このデザインにおける必要な表示方法を習得する。

[授業計画・授業内容]

1. プレゼンテーションの基本パワーポイント基本操作
2. プレゼンテーション準備相談会
3. プレゼンテーション準備相談会
4. 最終プレゼンテーション
5. 最終プレゼンテーション

[教科書・参考書] 別途指示

[評価方法・基準] 実習内での制作物、目標到達度、出席などを総合的に評価する。

[関連科目] 統合デザイン実習 I, II, III

授業科目名： デザイン科学 II
 科目英訳名： Design Science II
 担当教員： 勝浦 哲夫, 日比野 治雄
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TF212001

開講時限等： 2 年前期月曜 2 限
 講義室： 工 2 号棟 201 教室

科目区分

2005 年入学生： 専門必修 F10 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠), TK2:先進科学プログラム (フロンティア)), 専門選択 F30 (TL:メディカルシステム工学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 90 名程度

[受講対象] 自学部他学科生 履修可

[授業概要] デザインを行う上で欠かすことのできない人間の構造・生理・心理について、その基本的知識と応用手法を学習する。特に人間工学、心理学の観点からデザインする能力を養成する。

[目的・目標] デザインに関わる諸問題を考察する場合には、人間について十分な知識を有することが必須条件である。そこで、人間を扱うための基礎となる人間工学的観点および心理学的視点の涵養を目指し、その初歩から応用までを概観する。真の意味で人間に優しいデザインを考えることのできる能力を習得することが目標である。

[授業計画・授業内容] 人間にとって使いやすい機器をデザインするためには人間の生理的・心理的特性の理解が必要である。本授業では身体運動機能に関する人間工学及びデザイン心理学に関する入門的な内容を中心に講義を行う。

1. 人間工学とはなにか
2. 手の働きと製品デザイン
3. 製品人間工学の事例 (1)
4. 製品人間工学の事例 (2)
5. 筋の構造と筋収縮 (1)
6. 筋の構造と筋収縮 (2)
7. 筋活動の測定と評価
8. 中間試験
9. 心理学の視点からデザインを考える - デザイン心理学とは
10. 人間の知覚特性
11. 視知覚に関わる問題 (1)
12. 視知覚に関わる問題 (2)
13. 視知覚以外の知覚に関わる問題
14. デザイン心理学の応用的側面・まとめ
15. 期末試験

[キーワード] 人間, 人間工学, 身体構造, 生理機能, 心理学, 知覚

[教科書・参考書] 授業開始時に指示する

[評価方法・基準] 出席 (毎回出席をチェックする): 30 % ; 試験 : 70 %

[関連科目] ヒューマンインタフェース論, 環境人間工学, 生理人類学, 人間工学演習, 色と形の心理学, 人間行動の心理学

[履修要件] 特になし

授業科目名： デザイン論 III
 科目英訳名： Theory of Design III
 担当教員： 清水 忠男,
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TF211001

開講時限等： 2 年前期火曜 3 限
 講義室： 工 2 号棟 202 教室

科目区分

2005 年入学生: 専門必修 F10 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠), TK2:先進科学プログラム (フロンティア))

[授業の方法] 講義

[受講対象] デザイン工学科意匠系 2 年生

[授業概要] 視覚情報によるデザインの手段と目的、生活環境デザインの目的と人間行動との関係についての基礎概念を学ぶ。

[目的・目標] 視覚伝達デザインの機能と手法、歴史、および生活環境デザインの機能、枠組み、知識、方法を学ぶ。

[授業計画・授業内容]

1. 視覚伝達デザインの領域と役割
2. マスコミュニケーション媒体の機能
3. 媒体の歴史
4. 新聞デザイン
5. 広告
6. CI(Corporate Identity)
7. まとめ
8. 生活環境とデザインのかかわり
9. 他人とのかかわり方をデザインする / 空間の仕切りとつなぎ
10. 障害のない環境づくり / ユニバーサルデザイン
11. 移動によって把握される空間 / ウエイファインディング
12. メッセージを伝達する環境 / 空間の演出
13. 環境を形成する製品のデザイン
14. 共生意識によって支えられる環境
15. まとめ

[キーワード] 視覚情報, メディア, 環境, 空間, 共生

[教科書・参考書] 授業開始時に指示する

[評価方法・基準] 出席 (毎回出席をチェックする): 30 % ; レポート課題: 30 % ; 試験: 40 %

[関連科目] デザイン論 I, デザイン論 II, デザイン科学 I, デザイン科学 II

[履修要件] 必修

TF215001

授業科目名: トランスポーターデザイン I

科目英訳名: Transportation Design I

担当教員: 青木 護, 釜池 光夫

単位数: 3.0 単位

授業コード: TF215001, TF215002

開講時限等: 2 年前期火曜 4 限後半 / 2 年前期火曜 5 限

講義室: 工 1-401 (デザイン実習室)

(授業時間 15:15 ~ 17:40)

科目区分

2005 年入学生: 専門選択必修 F20 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠), TK2:先進科学プログラム (フロンティア))

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 30 人

[受講対象] 自学部他学科生 履修可

[授業概要] 交通機器に係わるトランスポーター機器、特に自動車の造形演習を通してデザインの基礎・プロセスを学ぶ。

[目的・目標] 以下のプロセスを通してデザインの基礎・プロセスを学び動機づけを行う。1) スケッチ・レンダリング技法の基礎と習熟 2) 造形モチーフからアイディアの発想・展開 3) コンセプトとアイディア展開 4) モデリングプロセスの基礎 5) プレゼンテーション

[授業計画・授業内容] デザインの基礎技法 (スケッチ・レンダリング・モデリング) とプロセスの演習を通して、トランスポートデザインへの動機付けを行う。毎回演習の宿題により予習

1. 自動車の実車を鉛筆で写生描画
2. 雑誌・写真の自動車を模写
3. 自動車の基礎的表示技法・図法の講義
4. 雑誌・写真の自動車を模写
5. 造形モチーフをベースとするアイデアの集中展開
6. 同上
7. 選択した造形モチーフによる自動車のアイデアスケッチ
8. アイデアスケッチの方向付け
9. ケッチのPCソフトによる修正・色づけなどの基礎技法
10. 同上
11. スケッチのレンダリング
12. レンダリングの縮尺外形製図 (1/10)
13. 発砲素材によるモデリング
14. 夏休みを利用したモデリング
15. 発砲素材によるモデリング
16. 合同評価会 (プレゼンテーション)

[キーワード] 基礎自動車デザイン、モチーフとスタイル、デザインプロセス

[教科書・参考書] 自動車表示図法 (小冊子) 参考スケッチ・レンダリング

[評価方法・基準] 出席率 (8割) 課題スケッチモデルプレゼンテーション

[関連科目] 造形演習・表示論・基礎デザイン・製品デザイン論

[履修要件] プロデザイナーを目指す意欲のある学生

TF218001

授業科目名：形の工学

〔千葉工大開放科目〕

科目英訳名：Engineering of Shape

担当教員：久保 光徳

単位数：2.0 単位

開講時限等：2 年前期水曜 1 限

授業コード：TF218001

講義室：工 2 号棟 201 教室

科目区分

2005 年入学生：専門選択 F30 (TK2:先進科学プログラム (フロンティア)), 専門選択科目 F36 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 講義

[受入人数] 50

[受講対象] デザイン工学科意匠系 2 年次学生

[授業概要] 材料力学および構造力学の初等的な考え方・手法を用いて、モノに見られる「形と力」の関係を基盤とした“ものづくり”における工学的感覚について考えさせ、体験させることを重要視している。そのため、講義形式のみではなく適宜必要に応じて小演習を組み込んで行く。

[目的・目標] 形が有する意味とその特質を工学的な視点から理解する。形の解釈に際しては材料力学・構造力学・機構学を基盤に据え、材料力学からは基本単位形態の力学的特性、構造力学からは部分と全体の力学的関係、機構学からは動的特性との関連について理解する。

[授業計画・授業内容] 講義中心に小演習を行いながら「形と力」の関係を体得させることを目的として以下のような授業内容を計画している。

1. 形と力の関係に対する直感的導入：長いヒモと短いヒモ；太い柱と細い柱
2. 外力と内力：力を伝えるものとその変形：伸び、縮み、曲げ、せん断
3. 引張に対する形：紙帯に対する検討：E と ；懸垂曲線；テンション構造
4. 圧縮に耐える形：平等強さの形

5. 座屈の形：身近な不安定現象
6. 曲げと圧縮に耐える形：二つのアーチ；境界条件と形；トラスとラーメン
7. 円筒形とシェル構造の形：円筒およびシェル構造；シャボン膜構造；膜と板
8. CADによる単純構造の作成とFEMによる構造解析1 - 紙引きバトル
9. CADによる単純構造の作成とFEMによる構造解析2 - 紙引きバトル
10. 自然物の形と力：枝・竹・骨の形に対する解釈
11. 人工物の形と力：ハニカムとFRP
12. 動作するモノの制作：CAD/CAE/CAMを用いた簡易構造体の制作1
13. 動作するモノの制作：CAD/CAE/CAMを用いた簡易構造体の制作2
14. 形に見られる力学性
15. 「まとめ」および試験もしくは制作

[キーワード] 形と力, 構造, 機構

[教科書・参考書] 授業中に紹介する。

[評価方法・基準] 複数回の小レポートと試験

[関連科目] 物理学 B 力学入門

[履修要件] 特になし。

[備考] 授業の進行に伴い、演習色の強い内容は授業時間以外の枠で実施する。平成16年度まで開講されていた「造形力学論」の読み替え科目である。

TF217001

授業科目名：メディアデザイン I 科目英訳名：Media Design I 担当教員：玉垣 庸一, 小原 康裕, 佐藤 公信 単位数：3.0 単位 授業コード：TF217001, TF217002	開講時限等：2 年前期水曜 4 限後半 / 2 年前期水曜 5 限 講義室：工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室, 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室 (授業時間 15:15 ~ 17:40)
--	--

科目区分

2005 年入学生：専門選択必修 F20 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠), TK2:先進科学プログラム (フロンティア))

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 基礎的な課題制作を通じて、後のセメスターに展開される実践的な授業への動機付けを行う。

[目的・目標] 多様なメディアに携わるデザイナーとして意匠系の学生にどのような実務能力が期待されているのか、またどのような研究能力が期待されているのかを提示し、後のセメスターに展開される実践的な授業への動機付けを行うことが目標である。

[授業計画・授業内容] 第1週～第5週 色彩デザインの基礎 担当：玉垣 第6週～第11週 音響メディアデザインの基礎 担当：佐藤

1. 課題：ハイパーテキストによるヴィジュアルイゼーション 図解してハイパーテキストにまとめる。 デジタルカラーに関する講義内容を
2. 色彩の基礎に関する講義、演習
3. デジタルカラーに関する講義、演習
4. ハイパーテキストのアイデア展開
5. プレゼンテーション
6. 広告対象設定と発想の展開とそのトレーニング
7. アイデアスケッチ
8. レイアウトブラッシュアップ 中間講評
9. CF アイデア展開とコンテ制作
10. 制作

11. プレゼンテーション
12. 音響デザインの基礎知識 音の物理的特性 MIDI/Audio
13. MAX/MSP を使ったプログラミングの基礎
14. リアルタイム処理による音情報生成プログラムの作成
15. プログラムを適用した音響作品の作成、講評

[キーワード] 色彩、広告、音響、レイアウト、図解、発想法、

[教科書・参考書] 授業にて紹介

[評価方法・基準] 出席状況および課題提出

[備考] 平成 16 年度まで開講されていた「視覚デザイン演習」の読み替え科目である。

TF214001

授業科目名：工業デザイン I 科目英訳名：Technical Design I 担当教員：(久米 寿明) 単位数：3.0 単位 授業コード：TF214001, TF214002	開講時限等：2 年前期木曜 4 限後半 / 2 年前期木曜 5 限 講義室：工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室, 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室 (授業時間 15:15 ~ 17:40)
--	--

科目区分

2005 年入学生：専門選択必修 F20 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠), TK2:先進科学プログラム (フロンティア))

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 具体的な製品のデザイン演習を通じ、プロダクトデザインの実践的業務プロセス全般を習得。

[目的・目標] 工業デザイン I としてプロダクトデザイナーとしての必要な知識や表現方法の基礎を習得し、ターゲット設定やコンセプト立案といった商品性視点や実際のモノづくりにおける量産性視点でのデザイン要求も踏まえながら、プロダクトデザインの重要性や楽しさを学ぶ。

[授業計画・授業内容] 基本的に毎回課題の個人発表と意見交換を行い、プレゼンテーション能力とコミュニケーション力の向上を目指す。

1. ガイダンス 「課題テーマと事例紹介」
2. ターゲット設定 「欲しがる人、欲しがるモノ」
3. コンセプトの構築 「コンセプトの魅力」
4. アイデアスケッチ 「カタチのパフォーマンス」
5. イメージスケッチ 「カタチのアフォーダンス」
6. コンストラクション 「機能割付け・サイズ・部品レイアウト」
7. スタイリング 「モチーフ・デフォルメ」
8. レンダリング 「線の強弱、質感の表現」
9. インターフェース 「コンテンツの表現、使用性」
10. コンテキスト 「デザインの関係性 ネーミングから宣伝販促まで」
11. モック作成
12. 中間プレゼンテーション
13. リファイン・コンセプトの決定
14. リファイン・デザインの作成
15. 最終プレゼンテーション

[キーワード] 商品性、市場性、独創性、誘発、カタチ、発見

[教科書・参考書] 「デザインの生態学」 深沢直人 東京書籍「デザインのデザイン」 原研哉 岩波書店

[評価方法・基準] 課題提出およびプレゼンテーション

授業科目名： デジタルデザイン実習
 科目英訳名： Digital Design Practice
 担当教員： (大平 智弘), 小原 康裕, 下村 義弘, 小野 健太, 八馬 智
 単位数： 1.5 単位
 開講時限等： 2 年前期金曜 3 限 / 2 年前期金曜 4 限前半
 授業コード： TF213101, TF213102
 講義室： 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室
 (授業時間 12:50 ~ 15:15)

科目区分

2005 年入学生： 専門必修 F10 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 実習

[授業概要] コンピュータのソフトウェアに関わる基本的技能の習得を目標とする。情報処理での内容を発展させ、プログラミングの概念の導入から実践までを、Web ページデザイン (ネットワーク系) とスプレッドシートマクロ言語 (スタンドアロン系) の両面から行う。

[目的・目標] Web ページデザインでは GoAlive を例として用い、与えられたテーマに基づいてページを制作してプレゼンテーションまでを行う。マクロ言語では、例として Excel と VBA を用い、Visual Basic とオブジェクト指向プログラミングの基礎を与えられた課題に沿って実習する。それぞれの授業は半独立して実施する。

[授業計画・授業内容]

[評価方法・基準] 制作した Web ページの完成度とプログラムの動作状況から評価する。

授業科目名： 環境デザイン I
 科目英訳名： Environmental Design I
 担当教員： (藤本 香), (高橋 久弥), (中西 利恵), 佐藤 公信
 単位数： 3.0 単位
 開講時限等： 2 年前期金曜 4 限後半 / 2 年前期金曜 5 限
 授業コード： TF216001, TF216002
 講義室： 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室
 (授業時間 15:15 ~ 17:40)

科目区分

2005 年入学生： 専門選択必修 F20 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠), TK2:先進科学プログラム (フロンティア))

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 様々な環境の中で、意図する空間のイメージを実際のデザイン提案として具体化するための方法について、空間計画の基礎、および平面表示技法をあわせて演習を行う。

[目的・目標] 空間デザインを行うために必要な基礎を講義・演習を通して理解し、的確な空間表現技法を習得する。講義では、各種技法の理論的側面を、演習では、各種図面の描き方及び透視図法の着彩技法までを体系的に学ぶ。

[授業計画・授業内容]

1. ガイダンス 環境デザインの実例
2. 作図の基本、図面の意味、展示デザインの実例紹介
3. 展示デザインの基本
4. 展示デザインの基本
5. 小さなギャラリーの計画
6. プレゼンテーション・講評
7. 住宅設計の概要/ 小課題 (1) 実測・レポート (1) 住空間について
8. 小課題 (2) 基本的な図面の描き方と設計の手順
9. 課題実習 平面計画・天井照明計画
10. 課題実習 材料と色彩の計画・家具装備計画・設備計画
11. 本課題プレゼンテーションと講評・レポート (2)
12. 店舗着彩演習・質感表現方法・空間表現方法・効果的な配色方法・添景の効果

13. エキジビション着彩演習・効果的な表現方法 (ボード作成の為の)
14. エキジビション着彩演習・効果的な表現方法 (ボード作成の為の)
15. 15回目についてはパースのプレゼンテーション、15回全体通してのプレゼンテーションと講評

[評価方法・基準]

[備考] 平成16年度まで開講されていた「環境デザイン製図演習」の読み替え科目である。「生活環境デザイン I」の読み替え科目である。

TF225001

授業科目名： デザイン文化論

[学部・放送大学・神田外大・千葉工大開放科目]

科目英訳名： Culture Theory of Design

担当教員： 宮崎 清

単位数： 2.0 単位

開講時限等： 2年後期月曜 2限

授業コード： TF225001

講義室： 工 2号棟 201 教室

科目区分

2005年入学生： 専門選択 F30 (TK2:先進科学プログラム (フロンティア)), 専門選択科目 F36 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可

[授業概要] デザインが人類社会の生活文化形成に果たしてきた諸相を、歴史的ならびに国内外の具体的事例に基づきながら検討する。また、今日的な具体的課題と連動させながら、デザイン実践のなかで堅持していくべき生活文化創生の理念・哲学について考察する。

[目的・目標] デザインに携わる者には、生活の「あるべき姿」をいかに描くかがきわめて重要である。本講義においては、生活文化の「これまで」と「いま」の諸相の把握・解析を通して、生活の「あるべき姿」を構築するための視座の提起、ならびに、生活の「あるべき姿」の実現に向けてのデザイン活動の認識を涵養する。

[授業計画・授業内容]

1. 文化としてのデザインの今日的課題～「人心の華」としてのデザイン
2. 生活文化の構造～ケとハレのデザイン
3. 生活文化の構造～変容のメカニズム
4. 生活用具のデザイン～プリコラージュ
5. 生活用具のデザイン～一物全体活用
6. 生活用具のデザイン～一器多用
7. 生活用具のデザイン～資源循環
8. 地域振興とデザイン～ものづくりを通した生き甲斐づくり
9. 地域振興とデザイン～地域の個性の多様性 I
10. 地域振興とデザイン～地域の個性の多様性 II
11. 伝統と現在・未来～伝統の普遍性
12. 伝統と現在・未来～伝統の創新
13. デザインの方法論～内発的発展に向けてのデザインサーベイ
14. 文化としてのデザインの展望
15. テスト

[キーワード] デザイン, 生活文化, 価値, 哲学

[教科書・参考書] 授業のなかで紹介します。

[評価方法・基準] 各授業ごとに小テストを実施します。出席数、レポート、小テスト、テストを総合して評価します。

[関連科目] デザイン文化計画演習

[備考] 「デザイン文化計画研究室」にて卒業研究を希望する学生は、必ず履修してください。平成16年度まで開講されていた「デザイン文化計画」の読み替え科目である。

授業科目名： 工学倫理	
科目英訳名： Engineering Ethics	
担当教員： 伊藤 智義	
単位数： 2.0 単位	開講時限等： 3 年後期月曜 5 限
授業コード： TZ051001	講義室： 総 B

科目区分

2004 年入学生： 専門基礎選択必修 E20 (TE:都市環境システム学科, TF5:デザイン工学科 A コース (意匠)), TJ1:都市環境システム学科 (環境), TJ2:都市環境システム学科 (メディア), TL:メディカルシステム工学科), 専門基礎選択 E30 (TK2:先進科学プログラム (フロンティア)), 専門選択必修 F20 (TH:情報画像工学科 A コース, TM1:共生応用化学科生体関連コース, TM2:共生応用化学科応用化学コース, TM3:共生応用化学科環境調和コース), 専門選択科目 F36 (TF4:デザイン工学科 A コース (建築))

[授業の方法] 講義

[受入人数] 250 名

[受講対象] 工学部 2~4 年次 (学科により指定あり, 電子機械工学科を除く)。電子機械工学科の学生は, 本科目ではなく, 「技術者倫理 (電子機械) (機)」または「技術者倫理 (電子機械) (電)」を履修すること。

[授業概要] 工学は科学・技術のさまざまな成果を活かし, 我々の生活及び生活環境を豊かにする実践の学問である。しかし, その使用の方向, 利用の仕方が適正でない時、社会的な大きな混乱や損失が生じ, ひいては個人の生活を脅かす事態となる。本講義では, 社会との関係における工学者の使命, 規範, 役割, 権利と義務等について広範な視点から論述する。

[目的・目標] 技術者が社会において, 正しい倫理観に基づいた技術の発展と社会貢献を進めるための基本的な概念と知識を身につけることを目的とする。

[授業計画・授業内容] 以下が平成 18 年度概要です。講師の都合により順番, 内容に関して変更する場合があります。(2006.8.9 一部主題変更) (2006.10.5 一部講義順序変更)

- 10 月 2 日 (月) ガイダンス (伊藤 智義 千葉大学工学部)
- 10 月 16 日 (月) 倫理とは (高橋 久一郎 千葉大学文学部)
- 10 月 23 日 (月) 工学倫理の特徴 (忽那 敬三 千葉大学文学部)
- 10 月 30 日 (月) 職能倫理としての工学倫理 (土屋 俊 千葉大学文学部)
- 11 月 6 日 (月) 工学者の高齢者・障害者への対応 (市川 薫 千葉大学大学院自然科学研究科)
- 11 月 13 日 (月) 技術者の知的所有権等財産的権利 (1) (三中 英治 千葉大学非常勤講師)
- 11 月 20 日 (月) 技術者の知的所有権等財産的権利 (2) (三中 英治 千葉大学非常勤講師)
- 11 月 27 日 (月) 組織における工学者の倫理 (中込 秀樹 千葉大学工学部)
- 12 月 4 日 (月) 耐震偽装問題 (小谷 俊介 千葉大学工学部)
- 12 月 11 日 (月) ネットワーク倫理 (全 へい東 千葉大学総合メディア基盤センター)
- 12 月 18 日 (月) 資源エネルギー消費と環境倫理 (町田 基 千葉大学工学部) 2006.8.9 主題変更
- 12 月 25 日 (月) 製造物責任 (PL) 法 (1) (小賀野 晶一 千葉大学法経学部)
- 1 月 15 日 (月) 製造物責任 (PL) 法 (2) (小賀野 晶一 千葉大学法経学部)
- 1 月 22 日 (月) 安全とリスク (1) (篠田 幸信 NTTアドバンステクノロジー株式会社)
- 1 月 29 日 (月) 安全とリスク (2) (篠田 幸信 NTTアドバンステクノロジー株式会社) まとめ (伊藤 智義 千葉大学工学部)

[キーワード] 工学者の使命, モラル, 義務, 規範, 技術者倫理

[評価方法・基準] 出席及びテスト

[履修要件] 各学科の科目区分はオンラインシラバスを参照のこととし, 表示がない場合は各学科教育委員に確認してください。

[備考] 講師の都合により順番, 内容に関して変更する場合があります。受講票の提出は必要ありませんが, 必ず, 初回の授業に出席してください。前期に履修登録をしなかった者は 10 月 2 日 (月) ~ 10 月 12 日 (木) に履修登録してください。この期間を過ぎるとこの科目の登録ができませんので, 十分注意してください。また, 履修登録の削除をする場合にはこの期間あるいは履修登録取消期間 (11 月 6 日 ~ 17 日) の間に行ってください。電子機械工学科の学生は, 本科目ではなく, 「技術者倫理 (電子機械)」TG208001 または TG208002 を履修してください。

授業科目名： トランスポーターデザイン II 科目英訳名： Transportation Design II 担当教員： 釜池 光夫 単位数： 3.0 単位 授業コード： TF220001, TF220002	開講時限等： 2 年後期火曜 3 限 / 2 年後期火曜 4 限前半 講義室： 工 1-401 (デザイン実習室) (授業時間 12:50~15:15)
--	--

科目区分

2005 年入学生： 専門選択必修 F20 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠), TK2:先進科学プログラム (フロンティア))

[授業の方法] 講義・実習

[受入人数] 20 人〜30 人

[受講対象] 自学部他学科生 履修可

[授業概要] 人の生活移動機器に係わる乗り物 (動具) の課題を通して、人・もの・環境の総合調和技術としての実践的なデザイン技法・工程を学び社会に貢献するプロデザイナーの育成をはかる。非常勤講師として経験豊かな企業デザイナーを招き実践的指導を行う。

[目的・目標] 自動車を中心に機能部品やレイアウトを含めたコンセプトワークとデザイン展開の修得。

[授業計画・授業内容] 自動車デザインを中心に、デザインの基本的なプロセスを学ぶ。担当教員と非常勤講師の指導のもと、実践的なコンセプトとパッケージング (主要部品や乗員のレイアウト) の関係を各人のアイディアに即して学習する。

1. ガイダンス・課題説明デザイン開発の事例紹介
2. テーマの設定作品事例紹介
3. コンセプトに必要な 5 W 1 H の資料収集
4. パッケージング・レイアウト
5. パッケージング・レイアウト
6. コンセプトの設定
7. アイディアスケッチ
8. アイディアスケッチ
9. アイディアスケッチ
10. レンダリング
11. レンダリング
12. CG レンダリング
13. モデル図
14. クレーモデリング実習 (メーカーにて)
15. クレーモデリング実習
16. PC スライド & モデル・パネルによるプレゼンテーション
17. プレゼンテーション合同評価会

[キーワード] パッケージング、形態と機能、コンセプト

[教科書・参考書] スケッチなど配布資料自動車の基本計画とデザイン 齊藤・山中監修 山海堂

[評価方法・基準] 各課題作品モデルコンセプトパネルプレゼンテーション

[関連科目] 製品デザイン論

[履修要件] トランスポーターデザインに興味がありプロデザイナーを目指す学生トランスポーターデザイン I

[備考] 平成 16 年度まで開講されていた「製品デザイン演習 II」の読み替え科目である。

TF250001

授業科目名： デザインの展望
 科目英訳名： View of Design
 担当教員： 佐藤 公信
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TF250001

開講時限等： 2 年後期火曜 5 限
 講義室： 工 2 号棟 103 教室

科目区分

2005 年入学生： 専門選択 F30 (TK2:先進科学プログラム (フロンティア))，専門選択科目 F36 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 講義

[受入人数] 100

[授業概要] デザインの様々な領域のトピックを紹介していく。

[目的・目標] デザインの現場における諸問題や優れた事例などを紹介し、デザインの可能性について造詣を深める。

[授業計画・授業内容] 各トピックについて、外部から講師を迎え講義を行うため、詳細なスケジュールについては、工学部 2 号棟 1 F の掲示を参照のこと。

1. ガイダンス
2. 特許庁意匠課長 瓜本忠夫氏
3. 元リコーデザイン部長 石井英機氏
4. 元トヨタデザイン部長 諸星和夫氏
5. 松下電工 泉 雅和氏
6. レイデザイン 垂水茂喜氏
7. 三菱電機 泉福 剛氏
8. ソニー 大場晴夫氏
9. 東芝デザインセンター 富岡 慶氏
10. フリーランス 根津孝太氏
11. 静岡工業技術センター 易 強氏
12. 乃村工藝社 山田竜太氏
13. J R 西日本 大森正樹氏
14. まとめ

[評価方法・基準] 毎回講義の後にレポートを提出する。

TF223001

授業科目名： ヒューマンインタフェース論
 科目英訳名： Human Interface Theory
 担当教員： 岩永 光一
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TF223001

開講時限等： 2 年後期水曜 2 限
 講義室： 工 2 号棟 201 教室

科目区分

2005 年入学生： 専門選択 F30 (TK2:先進科学プログラム (フロンティア))，専門選択科目 F36 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 講義

[受講対象] 工学部他学科生 履修可

[授業概要] 本科目では、人間と道具・システムとの界面を構成するヒューマンインタフェースについて、そのデザインにおいて考慮すべき人間特性を、生理、形態、心理の視点から解説する。また、ヒューマンインタフェースのデザインプロセスと手法、ヒューマンインタフェース研究の現状についても解説を行う。

[目的・目標] ヒューマンインタフェースの成り立ち、現状、デザインにおける人間特性への配慮の重要性を理解するとともに、ヒューマンインタフェースデザインの実践に必要な基本的な知識の獲得を目指す。

[授業計画・授業内容]

1. 講義の概要と目的
2. ヒューマンインタフェースの成り立ち：人間要素と人工物要素
3. ヒューマンインタフェースの分類と特徴：物理的インタフェースと認知的インタフェース
4. ヒューマンインタフェースにおいて考慮すべき人間特性（1）：視覚
5. ヒューマンインタフェースにおいて考慮すべき人間特性（2）：聴覚
6. ヒューマンインタフェースにおいて考慮すべき人間特性（3）：体性感覚
7. ヒューマンインタフェースにおいて考慮すべき人間特性（4）：味覚・嗅覚
8. 中間試験
9. ヒューマンインタフェース研究のトピックス
10. ヒューマンインタフェースにおいて考慮すべき人間特性（5）：メンタルモデル
11. ヒューマンインタフェースにおいて考慮すべき人間特性（6）：感性
12. ヒューマンインタフェースにおいて考慮すべき人間特性（7）：記憶
13. ヒューマンインタフェースのデザイン（1）
14. ヒューマンインタフェースのデザイン（2）
15. 期末試験

[キーワード] ヒューマンインタフェース, 人間特性, デザイン

[教科書・参考書] 授業中に指示する。

[評価方法・基準] 中間試験および期末試験、レポートの成績により、設定した水準の修得が認められること。

[関連科目] デザイン科学 II

TF224001

授業科目名：デザイン材料

科目英訳名：Design Material

担当教員：青木 弘行, 寺内 文雄

単位数：2.0 単位

開講時限等：2 年後期水曜 3 限

授業コード：TF224001

講義室：工 2 号棟 201 教室

科目区分

2005 年入学生：専門選択 F30 (TK2:先進科学プログラム(フロンティア)), 専門選択科目 F36 (TF5:デザイン工学科 A コース(意匠))

[授業の方法]

[授業概要] デザインと技術開発との関連を基盤に据え、各種デザイン材料に要求される内容を体系的に理解する。また、材料計画の視点に立脚して感性情報処理に関する内容を検討する。

[目的・目標] デザイン材料に関する基礎的な素養を身につける。

[授業計画・授業内容]

1. プラスチック材料
2. プラスチック材料
3. プラスチック材料
4. プラスチック材料
5. 金属材料
6. 金属材料
7. セラミック材料
8. 木質材料
9. 木質材料
10. 先端材料
11. 感性情報処理
12. 感性情報処理
13. 感性情報処理

14. 材料開発、材料関連技術の動向と方向性

15. テスト

[教科書・参考書] 授業開始時に指示する

[評価方法・基準]

[関連科目] デザイン科学 I

[備考] 出席、レポート、試験など

TF222001

授業科目名：メディアデザイン II

科目英訳名：Media Design II

担当教員：(松原 正毅), (木村 博之), (児山 啓一)

単位数：3.0 単位

開講時限等：2 年後期水曜 4 限後半 / 2 年後期水曜 5 限

授業コード：TF222001, TF222002

講義室：工 2 号棟 103 教室, 工 2-アトリエ (2-601),
工 2-第一製図室, 工 2 号棟 103 教室, 工 2-
アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室
(授業時間 15:15~17:40)

科目区分

2005 年入学生：専門選択必修 F20 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠), TK2:先進科学プログラム (フロンティア))

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] パッケージデザイン、インフォメーショングラフィックス、ピクトグラム・サイン計画の各領域におけるデザインの基礎について学ぶ。

[目的・目標] それぞれの領域の課題制作を通じて視覚情報はどのように扱われるかを学び、関連した表現技術を体得することが目標である。

[授業計画・授業内容] 第 1 週～第 5 週 パッケージデザイン 担当：松原 第 6 週～第 10 週 インフォメーショングラフィックス 担当：木村 第 11 週～第 15 週 ピクトグラム・サイン計画 担当：児山

1. 課題の説明
2. テーマの確定とアイデアスケッチ
3. アイデアの比較検討と絞り込み作業
4. 制作
5. 発表と講評
6. 課題の説明
7. テーマの確定とアイデアスケッチ
8. アイデアの比較検討と絞り込み作業
9. 制作
10. 発表と講評
11. 課題の説明
12. テーマの確定とアイデアスケッチ
13. アイデアの比較検討と絞り込み作業
14. 制作
15. 発表と講評

[キーワード] パッケージデザイン、インフォメーショングラフィックス、ピクトグラム、サイン計画

[教科書・参考書] 授業にて紹介

[評価方法・基準] 出席状況および課題提出

[備考] 平成 16 年度まで開講されていた「メディアデザイン演習 I」の読み替え科目である。

授業科目名：工業デザイン II
 科目英訳名：Technical Design II
 担当教員：渡邊 誠, (大木 雅之), (池田 稔), (須曾 公士), (大澤 隆男)
 単位数：3.0 単位
 開講時限等：2 年後期木曜 4 限後半 / 2 年後期木曜 5 限
 授業コード：TF219001, TF219002
 講義室：工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室
 (授業時間 15:15~17:40)

科目区分

2005 年入学生：専門選択必修 F20 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠), TK2:先進科学プログラム (フロンティア))

[授業の方法] 演習

[受入人数] 40

[目的・目標] 工業デザイン II はスタイリングに特化した演習であり、新しく考えた機能や性能あるいは様々な特徴を確実に形として成り立たせ、かつ美しく整ったデザインを行う。さらに、このデザインの機能評価を行い、デザインコンセプトとの達成度について評価する。

[授業計画・授業内容]

1. ガイダンス
2. デザインコンセプト
3. シェイプコンセプト
4. 機構・構造把握とデザイン展開 1
5. 機構・構造把握とデザイン展開 2
6. 見学会
7. シェイプチューニング 1
8. シェイプチューニング 2
9. レンダリング
10. モデリング
11. 機能評価 1
12. 機能評価 2
13. 機能評価 3
14. プレゼンテーション準備
15. 最終プレゼンテーション

[キーワード] 工業デザイン, スタイリング, 機能評価

[教科書・参考書] なし

[評価方法・基準] 最終プレゼンテーションで評価

[関連科目] 工業デザイン I

[備考] 平成 16 年度まで開講されていた「製品デザイン演習 I」の読み替え科目である。

授業科目名：環境デザイン II
 科目英訳名：Environmental Design II
 担当教員：佐藤 公信
 単位数：3.0 単位
 開講時限等：2 年後期金曜 3 限 / 2 年後期金曜 4 限前半
 授業コード：TF221001, TF221002
 講義室：工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分

2005 年入学生：専門選択必修 F20 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠), TK2:先進科学プログラム (フロンティア))

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 空間の演出手法に関連する、基本となる知識、技法について課題を通して考察する。具体的な空間を想定し、室内・展示空間の計画・演出を行うための実際の計画に即したプロセスをとりながら空間デザインを行う。

[目的・目標] 対象となる空間に臨場する受け手に対し、効果的な演出手法を通して、計画上の構成要素について考察する。また、課題では、具体的な室内・展示空間デザインに関して造詣を深める。

[授業計画・授業内容]

[評価方法・基準]

[備考] 平成16年度まで開講されていた「環境デザイン表示論演習」の読み替え科目である。「生活環境デザイン II」の読み替え科目である。

TF232001

授業科目名：環境人間工学

科目英訳名：Environmental Human Engineering

担当教員：勝浦 哲夫

単位数：2.0 単位

開講時限等：3 年前期水曜 2 限

授業コード：TF232001

講義室：工 2 号棟 102 教室

科目区分

2004 年入学生：専門選択 F30 (TL:メディカルシステム工学科)，専門選択科目 F36 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))，専門選択他学科科目 F37 (TF4:デザイン工学科 A コース (建築))

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可

[授業概要] ヒトを取り囲む環境とヒトの関係を人間工学，生理人類学の観点から講義する。

[目的・目標] 人間中心設計の立場から快適な空間をデザインする上で必要な人間工学，生理人類学について学習する。

[授業計画・授業内容]

1. 環境人間工学とは何かを概説する
2. 自然光と人工光
3. ヒトの視覚機能
4. 光と生体リズム
5. 光と自律神経機能
6. 光と中枢神経機能
7. 照明のデザイン
8. 中間試験
9. 紫外線と赤外線
10. ヒトの聴覚機能
11. 音と生体機能
12. 音のデザイン
13. 音環境評価
14. まとめ
15. 期末試験

[キーワード] 人間工学，生理人類学，光環境，音環境，生理機能

[教科書・参考書] 環境人間工学，佐藤・勝浦著（朝倉書店）

[評価方法・基準] 中間試験，期末試験によって総合的に評価する

[関連科目] デザイン科学 II，ヒューマンインタフェース論

授業科目名： トランスポーターデザイン III
 科目英訳名： Transportation Design III
 担当教員： 釜池 光夫, (小山 登)
 単位数： 3.0 単位
 授業コード： TF227001, TF227002
 開講時限等： 3 年前期木曜 3 限 / 3 年前期木曜 4 限前半
 講義室： 工 1-401 (デザイン実習室)
 (授業時間： 12:50~15:15)

科目区分

2004 年入学生： 専門選択必修 F20 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 25 名

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可; トランスポーターデザインを目指す海外留学生も履修可とする。

[目的・目標] 自動車を中心とするトランスポーターデザインの演習 コンセプトによるトランスポーターデザインを通して総合的な視点の醸成と技術レベルの向上を図る。

[授業計画・授業内容] 「10年後の私の乗りたい自動車」をテーマにコンセプトを立案し、調査、アイデアの展開、表示、クレーモデル、プレゼンテーション、など一連のデザインプロセスを通して、デザイン技術のレベルアップを図る。

1. ガイダンス：前期課題プレゼンテーションテーマ・条件説明
2. テーマ設定、資料収集
3. コンセプトとアイデアの展開
4. コンセプトとアイデアの展開
5. コンセプトとアイデアの展開
6. コンセプトとアイデアの展開
7. コンセプト中間報告
8. レンダリング
9. レンダリング
10. CGレンダリングとデータ
11. CGレンダリングとデータ
12. クレーによるモデリング、3DCGデータ作製
13. クレーによるモデリングCG3Dデータの強度解析
14. クレーによるモデリングCG3Dデータの強度解析
15. 夏休みを利用した総合リファイン、モデリングプレゼンテーション準備
16. 最終プレゼンテーション合同評価

[キーワード] コンセプト, CG解析, 総合デザイン技術レベルアップ

[教科書・参考書] トランスポーターデザイン演習作品集

[評価方法・基準] コンセプトとデザイン提案

[関連科目] 製品デザイン、トランスポーターデザインの演習授業

授業科目名： 知的財産権セミナー
 科目英訳名： Seminar: Intellectual Property Rights
 担当教員： (三中 英治)
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TZ052001
 開講時限等： 3 年前期火曜 5 限
 講義室： 工 2 号棟 103 教室

科目区分

2004 年入学生： 専門基礎選択必修 E20 (TE:都市環境システム学科, TF5:デザイン工学科 A コース (意匠), TJ1:都市環境システム学科 (環境), TJ2:都市環境システム学科 (メディア), TL:メディカルシステム工学科), 専門選択必修 F20 (TF4:デザイン工学科 A コース (建築))

[授業の方法] 講義

[受入人数] 100 人まで

[受講対象] 工学部他学科生 履修可

[授業概要] 工学部の学生が社会に出て必要とする知的財産権について論述する。特に特許、商標、不正競争防止法、著作権等に関する知識を実例を基に解説し、また、各国の知的財産制度にも触れ、国際的視点からも論述する。

[目的・目標] 技術者としての権利と義務の基本となる知的財産権に関する知識の習得を目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 知的財産（権）とは
2. 特許制度とは
3. 先行技術の調査
4. 請求の範囲、明細書、図面
5. 出願の審査
6. 審判
7. 特許権の効力
8. 実用新案権、意匠権、著作権
9. 商標権、意匠権、著作権
10. 特許を巡る裁判 1（均等論、当然無効）
11. 特許を巡る裁判 2（従業員の発明）
12. 外国での特許等の取得
13. 特許権侵害対策（権利者側）
14. 特許権侵害対策（侵害者側）
15. 試験

[キーワード] 知的財産を知らない技術者に明日はない

[教科書・参考書] 参考書配布予定、また、毎回プリントを配布する

[評価方法・基準] 試験及び適宜レポートを求める

[履修要件] 知的財産に興味を持つこと

TF229001

授業科目名：メディアデザイン III

科目英訳名：Media Design III

担当教員：玉垣 庸一

単位数：3.0 単位

開講時限等：3 年前期水曜 3 限 / 3 年前期水曜 4 限前半

授業コード：TF229001, TF229002

講義室：工 1-401（デザイン実習室）

（授業時間 12：50～15：15）

科目区分

2004 年入学生：専門選択必修 F20（TF5:デザイン工学科 A コース（意匠））

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 現代社会における広告がメディアミックスの形をとり、より企業戦略的な視野に立ったものであることを踏まえ、キャンペーンの立案、ポスターなどの平面媒体、web における広告、TVCF の制作を行う。

[目的・目標] 具体的なキャンペーンを立案し、個々のメディア特性に適した表現に落としゆく課題を通じて、総合的に広告展開する能力を身につけることが目的である。

[授業計画・授業内容]

1. キャンペーン広告の企画・立案 課題説明
2. 媒体の検討。既存広告の調査
3. コンセプトメイキング、コピーライティング
4. 試作・合評
5. 本制作・合評

6. web デザイン 課題説明
7. コンセプトメイキング、ラフの制作
8. ネットワーク、表現手段の検討
9. コーデックの知識と仮制作
10. 本制作・合評
11. TVCF 課題説明
12. コンテ
13. 素材撮影
14. 編集・制作
15. 総合講評

[キーワード] メディアミックス、キャンペーン、web、TVCF

[教科書・参考書] 授業にて紹介

[評価方法・基準] 出席状況および課題提出

[備考] 旧カリで開講されていた「メディアデザイン演習 II」の読替科目

TF230001

授業科目名：デザイン文化計画演習	(千葉工大開放科目)
科目英訳名：Design Culture Plan Seminar	
担当教員：宮崎 清, 植田 憲, 樋口 孝之	
単位数：3.0 単位	開講時限等：3 年前期木曜 1 限後半 / 3 年前期木曜 2 限
授業コード：TF230001, TF230002	講義室：工 2 号棟 201 教室 (授業時間 9:35~12:00)

科目区分

2004 年入学生：専門選択科目 F36 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 演習

[授業概要] 地域社会におけるデザイン文化の諸相を、近隣地域におけるフィールド・サーベイを通して把握・解析する。また、得られた知見を地域社会に向けたデザイン提案としてまとめ、発表する。なお、フィールド・サーベイの意義・方法等を学習した後、夏季休業中に地域社会に 10 日間ほど出向いてフィールド・サーベイを行う。

[目的・目標] 人間生活の「あるべき姿」の探求・提案としてのデザイン実践にあたっては、「これまで」および「今日」の生活文化に関する総点検を欠かすことができない。そのためには、「野に出て生活を学ぶ」フィールド・サーベイを通じて、人びとの生活文化の総体をそれぞれの地域の歴史的・風土的脈絡のなかでしっかりとみつける必要がある。本演習は、「デザイン文化論」で学び築いた生活文化解析の視座に基づき、実際の地域社会における生活文化の「あるべき姿」を探求・提案する資質の涵養を目的としている。

[授業計画・授業内容]

1. 地域社会における自然との共生のデザイン
2. 地域社会における資源利活用のデザイン
3. 地域社会におけるアノニマス・デザイン
4. 地域社会における環境・景観形成のデザイン
5. 調査地の概要の把握
6. テーマ設定と調査計画の検討
7. 調査項目の検討
8. フィールド・サーベイの実施
9. フィールド・サーベイの実施
10. フィールド・サーベイの実施
11. フィールド・サーベイの実施
12. フィールド・サーベイのまとめ
13. フィールド・サーベイに基づいたデザイン提案の検討
14. 報告会の開催

15. フィールド・サーベイを通じたデザイン文化の展望

[キーワード] デザイン, フィールドサーベイ, 生活文化, プレゼンテーション

[教科書・参考書] 資料・参考文献等を授業のなかで紹介・提示します。

[評価方法・基準] 成績評価は、出席状況、プレゼンテーションの状況に基づいて行います。

[関連科目] デザイン文化計画

[履修要件] 特にありません。

[備考] 「デザイン文化計画研究室」にて卒業研究を希望する学生は、必ず履修してください。

TF226001

授業科目名：工業デザイン III

科目英訳名：Technical Design III

担当教員：渡邊 誠

単位数：3.0 単位

授業コード：TF226001, TF226002

開講時限等：3 年前期木曜 4 限後半 / 3 年前期木曜 5 限

講義室：工 1-401 (デザイン実習室)

(授業時間：15:15~17:40)

科目区分

2004 年入学生：専門選択必修 F20 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 30

[授業概要] 近年の工業デザインの傾向であるハード (アピアランス) とソフト (インターフェイス) が融合したデザインを実践する

[目的・目標] 現在スタンダードになっている電子化された工業製品を、ソフトおよびハードの両方の側面よりデザインする。この場合の中と外の融合とはソフトとハードの融合を意味する。当然のことながらプロダクトインターフェイスが一つの大きなテーマとなり、新しい機能の提案とそれを受けることができるデザインを行う。アピアランスおよびソフトの双方の提案を行う。

[授業計画・授業内容] 何らかの工業製品を対象としハード (アピアランス) とソフト (インターフェイス) が融合したデザインを提案する

1. ガイダンス
2. テーマにおける技術動向
3. コンセプト・ターゲットプレゼンテーション (以下デザインワークは継続)
4. プロトコル分析
5. プロトコル分析結果プレゼンテーション
6. プロトコル分析結果数量化分析
7. プロトコル分析結果数量化分析プレゼンテーション
8. 分析結果によるユーザー像プレゼンテーション
9. 機器の仕様展開
10. インターフェイスデザイン
11. システム検討
12. ダミー作成
13. アピアランス評価
14. ユーザビリティ評価
15. プレゼンテーション

[キーワード] 工業デザイン, アピアランス, インターフェイス

[教科書・参考書] なし

[評価方法・基準] 最終提出課題

[関連科目] 工業デザイン I, 工業デザイン II

[履修要件] 工業デザイン I, 工業デザイン II を履修していること

授業科目名：平面デザイン造形
 科目英訳名：Plane Design Forming
 担当教員：瀧 徹, 田内 隆利, (小林 基輝)
 単位数：3.0 単位
 授業コード：TF231001, TF231002
 開講時限等：3 年前期水曜 4 限後半 / 3 年前期水曜 5 限
 講義室：工 2 号棟 101 教室, 工 2 - 工房, 工 2 号棟
 101 教室, 工 2 - 工房
 (15:15~17:40)

科目区分

2004 年入学生：専門選択科目 F36 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 演習

[授業概要] 表現の領域は複雑多岐に及んでおり、手描きと印刷等の制作手法の違いを理解し、造形上の問題点を幅広い視点からデザインとして検討を行う。版画は直接、平面に描くのではなく、版を使って間接的に絵を作っていく技法である。

[目的・目標] デザインに必要な計画力、構成力、そして表現力を具体的モチーフ、抽象的モチーフを通して習得することを目的とする。表現には手描き、コンピュータ、版手法を用い、制作手法の違いによる表現結果の特性を理解する。

[授業計画・授業内容] 課題・デッサン、自画像 (鉛筆) ・帽子を被る自画像 (銅版画) ・キュビズムの自画像の合成 (リトグラフ)

1. オリエンテーション / 版画の説明、下書きの描き込み
2. 自画像デッサン / 帽子の発想の工夫、描画の表現
3. 銅版画古典技法 / グランドの処理
4. 下絵の転写 / マットフィルムからの転写、その手順、描写
5. ニードルによる描画 / 描写、その描き込み方、ハッチング、表現の的確性
6. 腐食、硝酸による / 硝酸の腐食の具合、濃度、時間による変化の把握
7. 加筆、ニードル / 描き込み、描写密度、質感の表現 エッチング
8. 腐食 / 再度の腐食での版の変化 アクアチント
9. 刷り / 刷りによる効果、マージ、プレートマーク、表現力
10. 刷り / PC 上で合成加工
11. OHP 出力、転写 / JPG ファイル、フロッピーにて持参する。OHP に出力する
12. PS 版写真感光、現像 / 日光による露光の為、露光時間が不安定になるので注意
13. 刷り / アプリケ技法による平面刷り
14. 刷り / 多色による刷り
15. 講評・採点

[キーワード] デザイン、平面、造形、構成

[評価方法・基準] 出席率 4/5 が条件 (60%)、課題、制作は 40%

[備考] 平成 8 年度まで開講していた「平面造形・演習」、平成 9 年度まで開講していた「造形実習 I・II」、平成 11 年度まで開講していた「造形デザイン演習」の読み替え科目

授業科目名：色と形の心理学
 科目英訳名：Psychology of Color and Shape
 担当教員：日比野 治雄
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TF233001
 開講時限等：3 年前期金曜 1 限
 講義室：工 2 号棟 202 教室

科目区分

2004 年入学生：専門選択科目 F36 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))、専門選択他学科科目 F37 (TF4:デザイン工学科 A コース (建築))

[授業の方法] 講義

[受入人数] 90 名程度

[受講対象] 自学部他学科生 履修可

[授業概要] デザインの領域で必要となる色彩および形態の知覚の基礎について、心理学の視点から概説する。

[目的・目標] デザインに関わる諸問題を考察する場合に必要な心理学的視点の涵養を目指し、人間の知覚特性に関する知識について理解を深める。具体的には、デザインの観点から色彩心理学および色彩工学における基礎理論について概説するとともに、形態知覚の基礎についても概観する。

[授業計画・授業内容] 人間にとってよりよいデザインを実現するためには人間の知覚特性に対する正しい理解が必要である。本授業では、特に心理学の視点から色と形の問題について考える。

1. はじめに：デザインの領域における色と形の心理学
2. 色彩の基礎理論
3. 「色の見え」に関する諸問題
4. マンセル表色系(1)：ワーク・シートによる実習も含む演習課題
5. マンセル表色系(2)：ワーク・シートによる実習も含む演習課題
6. 課題についてのまとめ
7. 色彩の心理効果
8. 色彩工学の基礎
9. 色彩とデザインの問題
10. 形態知覚の基礎
11. 形態知覚に関する諸問題
12. 形態知覚特性の応用
13. 複合的な色と形の知覚の問題点
14. 補足事項および全体のまとめ
15. 最終試験

[キーワード] 色, 形, デザイン心理学, 人間, 知覚

[教科書・参考書] 授業開始時に指示する

[評価方法・基準] 出席(毎回出席をチェックする): 30%; レポート・課題: 30%; 試験: 40%

[関連科目] デザイン科学 II

[履修要件] デザイン科学 II を受講していることが望ましい

[備考] 平成16年度まで開講されていた「色彩科学」の読み替え科目である。

TF228001

授業科目名：環境デザイン III

科目英訳名：Environmental Design III

担当教員：清水 忠男

単位数：3.0 単位

授業コード：TF228001, TF228002

開講時限等：3 年前期金曜 4 限後半 / 3 年前期金曜 5 限

講義室：工 1-401 (デザイン実習室)

(授業時間 15:15 ~ 17:40)

科目区分

2004 年入学生：専門選択必修 F20 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 最も身近な環境形成要素である身体支持具(椅子、ソファ、ベンチ、車椅子等)を対象とした幾つかの選択課題から一つを選び、使用者の要求や使用場所の条件等の調査を経て、製品とそれが使われる場のデザイン提案を行う。各課題の優秀作品は、自作や企業の協力による実物製作を経て、家具デザインコンペ、学生家具デザイン展等への応募・出品推薦の対象となる。

[目的・目標] 「環境」は、言い換えれば「人間をとりまく状況」なのだから、誰もが日常的に接していることだ。現実を目を注げば、きわめて多くの多様なデザインの課題が広がっていることに気づかせられる。本演習では、最も身近な環境形成要素である身体支持具のデザインを手がかりに、使用者と製品・空間とのかかわりを総合的にとらえる環境デザインの基本を学んで行く。

[授業計画・授業内容]

1. 講義：環境形成製品としてのストリートファニチャー (SF) 講義：環境形成製品と場のデザイン：あるデザイナーの仕事为例として 選択課題の説明
2. 講義：各課題の背景 / 企業における開発の実際
3. 調査 (学外)
4. 講義：環境形成製品と使用される場とのかかわり
5. 調査結果と基本方針の発表 / 講評
6. 講義：SF に関する人間工学的・心理学的の基本と可能性 講義：SF に関する構造・材料の基本と可能性
7. 講義：SF の開発プロセスと図面表現 / 模型製作技法
8. 作業 / 個別相談
9. 作業 / 個別相談
10. SF のデザイン提案の発表 / 講評
11. 環境形成製品と使用される場の図面表現 / 模型製作技法
12. 調査 (学外)
13. 作業 / 個別相談
14. 作業 / 個別相談
15. 使用される場を含めた総合的デザイン提案の発表 / 講評 全課程終了後、選ばれたデザイン提案は、さらなる特別指導を経て、各協力企業の関連工場等で実習方式をとりながら実物製作に進む可能性を持ち、その他の優秀作品とともに、学内外で発表展示を行い、各種デザインコンペや、学生デザイン展への応募・出品推薦の対象となる予定。なお、上記課程とは別に協力企業のショールーム見学 (任意参加) を行う。

[キーワード] 環境形成製品のデザイン, ストリートファニチャー, 身体支持具, 家具デザイン, 場のデザイン

[教科書・参考書] 必要に応じて、指示や紹介を行う。

[評価方法・基準] 各課題の成績と、各回に提出されたコメントの内容、出席状況を総合して行う。

[履修要件] 毎回、与えられたテーマに関するコメントを出席票を兼ねた用紙に記入して提出。出席数が 10 回に満たない場合、また、課題の一部でも提出されなかった場合は、原則として単位は与えられない。

[備考] 「生活環境デザイン III」の読み替え科目である。

TF240001

授業科目名：生活行動の心理学

科目英訳名：Psychology of Living Activity

担当教員：桐谷 佳恵

単位数：2.0 単位

開講時限等：3 年後期火曜 2 限

授業コード：TF240001

講義室：工 2 号棟 101 教室

科目区分

2004 年入学生：専門選択科目 F36 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 講義

[授業概要] デザイン実践者が知っておくべき心理学的知見のうち、特に社会心理学の範囲にかかわるもの (他者とのかかわりでの人の行動について) を概説する。また、受講生自身がデータを集めて、解析する作業も行う。

[目的・目標] デザイン実践者として必要な心理学概論を身につける。

[授業計画・授業内容]

1. 心理学の基礎用語、概念について
2. 帰属理論 1
3. 帰属理論 2
4. 態度と態度変容 1
5. 態度と態度変容 2
6. 対人魅力 1
7. 対人魅力 2
8. 購買行動 1
9. 購買行動 2

10. インターネットと心理学 1
11. インターネットと心理学 2
12. インターネットと心理学 3
13. 調査 1
14. 調査 2
15. 調査発表

[キーワード] 社会心理学、対人行動

[教科書・参考書] 授業内で適宜指示する。

[評価方法・基準] レポート

TF235001

授業科目名：トランスポーターデザイン IV

科目英訳名：Transportation Design IV

担当教員：釜池 光夫

単位数：3.0 単位

授業コード：TF235001, TF235002

開講時限等：3 年後期金曜 4 限後半 / 3 年後期金曜 5 限

講義室：工 1-401 (デザイン実習室)

(授業時間 15:15~17:40)

科目区分

2004 年入学生：専門選択必修 F20 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 25 名

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可; トランスポーターデザインを目指す
海外留学生も履修可とする。

[授業概要]

[目的・目標] 自動車を中心とするトランスポーターデザインの演習 アドバンスデザインによるトランスポーター
デザインを通して総合的な視点の醸成と技術レベルの向上を図る。

[授業計画・授業内容] 「将来のトランスポーター」をテーマにコンセプトを立案し、調査、アイディアの展開、表示、ク
レーモデル、プレゼンテーション、など一連のデザインプロセスを通して、デザイン技術のレベルアップを図る。

1. ガイダンス：前期課題プレゼンテーションテーマ・条件説明
2. テーマ設定、将来予測資料調査
3. アドバンスデザインのデザイン要件の設定
4. アドバンスデザインのデザイン要件の設定
5. コンセプトとアイディアの展開
6. コンセプトとアイディアの展開
7. コンセプト中間報告
8. レンダリング
9. レンダリング
10. CG レンダリングとデータ
11. CG レンダリングとデータ
12. クレーによるモデリング、3DCG データ作製
13. クレーによるモデリング CG 3D データの強度解析
14. クレーによるモデリング CG 3D データの強度解析
15. 春休みを利用した総合リファイン、モデリングプレゼンテーション準備
16. 最終プレゼンテーション合同評価

[キーワード] コンセプト, 総合デザイン技術レベルアップ

[教科書・参考書] アドバンスデザイン作品集

[評価方法・基準] コンセプトとデザイン提案

[関連科目] 製品デザイン、トランスポーテーションデザインの演習授業

TF237001

授業科目名：メディアデザイン IV
 科目英訳名：Media Design IV
 担当教員：(大橋 透), (狐塚 康己), 赤瀬 達三
 単位数：3.0 単位
 開講時限等：3 年後期水曜 3 限 / 3 年後期水曜 4 限前半
 授業コード：TF237001, TF237002
 講義室：工 1-401 (デザイン実習室)
 (授業時間 12:50 ~ 15:15)

科目区分

2004 年入学生：専門選択必修 F20 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] メディアデザイン I,II,III を通じて学んだ内容に立脚し、総合的なデザイン展開の仕方を学ぶ。

[目的・目標] コンセプト立案、市場調査、アイデア展開、製品設計、レンダリング、評価・検証、プレゼンテーションというフローのもと、個々の領域が抱える問題をグラフィックの側面から解決する能力を身につけることを目標とする。

[授業計画・授業内容] 大橋 1 - 5

1. 課題の説明
2. テーマの確定とアイデアスケッチ
3. アイデアの比較検討と絞り込み作業
4. 制作
5. 発表と講評
6. 課題の説明
7. テーマの確定とアイデアスケッチ
8. アイデアの比較検討と絞り込み作業
9. 制作
10. 発表と講評
11. 課題の説明
12. テーマの確定とアイデアスケッチ
13. アイデアの比較検討と絞り込み作業
14. 制作
15. 発表と講評

[キーワード] ピクトグラム、サイン計画、パッケージデザイン、アミューズメントデザイン

[教科書・参考書] 授業にて紹介

[評価方法・基準] 出席状況および課題制作

[備考] 旧カリにおける「メディアデザイン演習 III」の読替科目

TF239001

授業科目名：立体デザイン造形
 科目英訳名：Solid Design Forming
 担当教員：瀧 徹
 単位数：3.0 単位
 開講時限等：3 年後期水曜 4 限後半 / 3 年後期水曜 5 限
 授業コード：TF239001, TF239002
 講義室：工 2 - 工房, 工 2-アトリエ (2-601), 工
 2 - 工房, 工 2-アトリエ (2-601)
 (授業時間 15:15 ~ 17:40)

科目区分

2004 年入学生：専門選択科目 F36 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 演習

[授業概要] 立体造形に対する視点・素材の特性と加工技術の関係、構造的機能と表現性の追求など、多面的な感性を養う。

[目的・目標] 演習では与えられた条件の中で、イメージした形を自分の視点で表現していく中で、客観性を持ちながら創造性高いものを目指す。また、人体モデルを使い人間のバランス動勢を瞬間に捉える訓練をクロッキーや粘土で制作する。

[授業計画・授業内容] 課題・イメージデッサン (B3 画用紙、鉛筆) ・「飛ぶ」をテーマに抽象立体制作 (楠材 30 × 25 × 11cm) ・クロッキー (木炭紙) ・テラコッタ (小品)

1. オリエンテーション/テーマ、素材、道具の説明
2. 構想/イメージで制作
3. 材料の分割/大きさと形の関係
4. 粗彫り/全体と部分の形の性質
5. 粗彫り/テーマ、イメージの方向性
6. 全体と部分/表現の的確性、彫り込み
7. 形の組み合わせ/バランスと形の整理
8. 形の組み合わせ/イメージの確認、細部の表現
9. 形の組み合わせ/表現力、空間構成
10. 完成/完成度
11. クロッキー/線の使い方、動きの表現
12. クロッキー/バランス、ポーズの印象
13. テラコッタ/バランス、量的な形
14. テラコッタ/表現力、ポーズの把握
15. 講評・採点

[評価方法・基準]

TF238001

授業科目名：材料開発計画

科目英訳名：Material Development Plan

担当教員：青木 弘行

単位数：2.0 単位

授業コード：TF238001

開講時限等：3 年後期木曜 5 限

講義室：工 2 号棟 101 教室

科目区分

2004 年入学生：専門選択科目 F36 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 講義

[目的・目標] 新材料開発のための思考過程、方法、その実際等にあたる計画・立案に関する内容を講義する。特に、プラスチック材料の基礎物性から、改良、そして応用領域まで言及し、材料開発に関する最新の情報を提供する。また、加工技術について概説し、プラスチック製品の形態とその意味を説明する。

[授業計画・授業内容]

1. 材料開発とは何か
2. プラスチック材料の基礎物性 (1)
3. プラスチック材料の基礎物性 (2)
4. プラスチック材料の改良 (1)
5. プラスチック材料の改良 (2)
6. プラスチック材料の応用領域
7. 各種複合材料開発の現状と応用製品例
8. 加工技術開発 (1)
9. 加工技術開発 (2)
10. 加工技術開発 (3)
11. 加工技術開発 (4)

12. 加工技術開発 (5)
13. プラスチック材料と環境問題
14. 材料開発と工業デザインの接点
15. まとめ

[教科書・参考書] 授業時に指示する

[評価方法・基準] テストほか

TF234001

授業科目名：工業デザイン IV 科目英訳名：Technical Design IV 担当教員：渡邊 誠 単位数：3.0 単位 授業コード：TF234001, TF234002	開講時限等：3 年後期金曜 4 限 / 3 年後期金曜 5 限前半 講義室：工 1-401 (デザイン実習室)
---	--

科目区分

2004 年入学生：専門選択必修 F20 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 演習

[受入人数] 15

[授業概要] 工業デザインにおけるビジネスモデルプランニングを演習を通して習得する。

[目的・目標] 工業デザインの中でも、システムとしての形相を持つ物を対象にする。ビジネスモデルとしてのシステムを提案し、新たな生活を提案するようなプロダクトを提案する。一方で、ユーザーモデルの構築のためにデザイン心理学的な側面よりプロトコル分析を行う。ホームネットワーク、ネットワークプロダクトのような家庭内のシステムから、ユビキタスネットワークのように公共性の高いプロダクトのシステムまで幅広い領域を対象にする。

[授業計画・授業内容]

1. ガイダンス
2. ビジネスモデルに関するケーススタディ分析
3. ユーザー調査
4. ユーザー行動分析・ユーザーの特徴把握
5. コンセプトの決定・ユーザーターゲットの設定とプレゼンテーション
6. アピランス検討
7. システム検討
8. システム評価
9. インターフェイス検討
10. インターフェイス決定デザイン展開
11. デザイン展開
12. ユーザビリティ調査
13. ユーザビリティレビュー
14. プレゼンテーション準備
15. プレゼンテーション

[キーワード] デザインビジネスモデル、ユーザーエクスペリエンテーション、ユーザーセンタード

[教科書・参考書] なし

[評価方法・基準] 作品モデルおよびプレゼンテーション最終のプレゼンテーションで評価

授業科目名：環境デザイン IV
科目英訳名：Environmental Design IV
担当教員：(鈴木 恵千代), 佐藤 公信
単位数：3.0 単位
授業コード：TF236001, TF236002

開講時限等：3 年後期火曜 4 限後半 / 3 年後期火曜 5 限
講義室：工 1-401 (デザイン実習室)
(授業時間 15:15~17:40)

科目区分

2004 年入学生：専門選択必修 F20 (TF5:デザイン工学科 A コース (意匠))

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 現場の第一線で活躍中のデザイナーを講師に迎え、最新事例の見学や解説を通して実際的な手法について学ぶ。課題では、具体的な空間、展示対象を想定し、実際の計画に即したプロセスをとりながら展示デザインを行う。

[目的・目標] 伝達・訴求機能を主目的として空間を演出するディスプレイ(展示)デザインの特徴を認識し、計画上の構成要素について考察する。また、課題を通し実際的な展示デザインに関して造詣を深める。

[授業計画・授業内容] ・空間デザインの実例とデザインプロセスについて・ゾーニング 平面プランの考え方・アイディアの展開・表現手法について・課題 1 商業施設の企画・デザイン・課題 2 コミュニケーションスペースにおける展示計画・プレゼンテーション及び講評

[評価方法・基準]

[備考] 「生活環境デザイン IV」の読み替え科目である。